

粧工連通知 20220006 号

2022 年 9 月 1 日

日本化粧品工業連合会傘下会員各位

日本化粧品工業連合会
技術委員長 北垣 雅人

日本化粧品工業連合会 UVA 防止効果測定法基準について—2022 年の
ISO24442 改定に伴う変更点

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、日本化粧品工業連合会（粧工連）では、平成 24 年（2012 年）6 月 20 日付「日本化粧品工業連合会 UVA 防止効果測定法基準の改定について」（24 粧工連第 3 号）と題する測定法を粧工連の自主基準として運用しておりますが、この自主基準では ISO24442 Cosmetics - Sun protection test methods - In vivo determination of sunscreen UVA protection を測定法として選定しております。

この度、2022 年 6 月に ISO24442 (2022) として第 2 版が ISO（国際標準化機構）から発行されましたので、今後、UVA 防止効果測定を行う場合には最新の試験法として ISO24442 (2022)に変更いただくようよろしくお願い致します。ISO24442 (2011) との主な変更点は下記のとおりです。ご留意くださるようよろしくお願い申し上げます。

なお、ISO24442:2022（英文版）は日本規格協会から購入いただけます。

https://webdesk.jsa.or.jp/books/W11M0090/index/?bunsyo_id=ISO+24442%3A2022

敬具

記

「ISO24442 (2011)」と「ISO24442 (2022)」への主な変更点

(1) 最小持続型即時黒化量 (MPPDD) 基準の定義が変更された。MPPDD 判定時の持続型即時黒化について、「紫外線照射野の大部分において、境界がはっきりとした、かすかな持続型即時黒化」から、「紫外線照射部位の 50%以上において、境界がはっきりとした、かすかな持続型即時黒化」に改定された。

(2) 被験者選択の際に、フィッツパトリックのスキンタイプ分類が廃止され、

Individual Typology Angle (ITA°)による選択のみとなり、UVAPF の試験には ITA°が 18°から 43°の被験者を使う必要があることなどが追加された。

(3) 幅広い UVAPF 値の製品に対応するために、これまでの 2 つの標準試料 (S1 : 4.4、S2 : 12.7) に加えて、新たに 3 つの標準試料 (P2 : 2.7、P5 : 13.4、および P8 : 27.5) が追加された。

(4) 試料の塗布方法について、製剤型ごとに詳細に記載された。

(5) 光源のビームの均一性について、UV 感受性フィルム又は UV センサーを用い、ソーラーシミュレータのタイプごとに確認方法が定義づけられ、多出力装置については、全光束の平均均一性が 90%以上であり、個々の出力光束の均一性が 85%未満にならないことが要件として追加された。

(6) 持続型即時黒化反応を等級づけるためのガイドラインとなる持続型即時黒化反応の写真例が、付録に加えられた。

(7) 全ての照射野に持続型即時黒化反応が見られた場合や持続型即時黒化反応に照射量依存性が認められなかった場合など、データ棄却の判定基準が事例別により詳細に記載された。

以 上